

《私たちが神様に見せようとするのは、内側です》

たぶん二年くらい前(正確な時期は記憶していませんが) 説教の中で、「本物と一番似ているのは偽物である。」と話したことがあります。覚えているでしょうか。この世の中で、本物と一番似ているのは偽物です。ですから、偽物は区別できないくらい本物と似ています。ということは、私たちは本物を求めているのに偽物にだまされてしまう可能性がものすごく高くなります。だから、信者である私たちは、それを識別するためにいつも知恵を求めなければなりません。

では、本物と一番似ている偽物をどのように区別したら本物を手に入れることができるのでしょうか。まず何よりも、私たちには、『わきまえようとする心』が必要です。その心がなければ私たちはすぐにだまされてしまいます。「私はあまりだまされたことはないと思います。」という人もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、皆様がどのくらいだまされているか、これから証明させていただきます。

とにかく、『わきまえようとする心』が何よりも必要です。わきまえるためにはどうしたらよいのでしょうか。先ほど申しあげた知恵が必要です。それでは、知恵はどこから来るのでしょうか。知恵が神様から来ることを私たちは誰でも知っています。では、具体的にはどのように、その知恵を求めればよいのでしょうか。たぶん皆様は、洗礼を受けてから、もう数えられないくらい聖書の御言葉に接したと思います。しかし、その御言葉がいくら素晴らしくても、生きている御言葉として自分に影響を与えられなければ、それは死んだ御言葉になってしまいます。もし知恵を求める理由が、識別をするためならば、必ずその御言葉は生かされて、私たちに影響を与えます。

では皆様、福音の御言葉どおりに生きていらっしゃるのでしょうか。「そう思います。」とおっしゃる方がほとんどだと思いますが、実はそうではない場合があることを証明させていただきます。

本物と偽物を区別することは、今日の福音(ルカ 11:37-41)でも少し、イエス様がおっしゃっています。たとえば、私たちの弱さの一つですが、目の前にみすぼらしそうな服を着た人が来た時と立派なブランドの服を着た人が来た時とでは、やはり見方が違ってしまいます。皆様どうですか。ご自分で認めますか。物乞いする人に対する振る舞いや心持ちと、ものすごく人気のあるタレントに対する振る舞いや心持ちとでは違うと思います。しかし、本物と偽物を識別する知恵を、もし私たちがイエス様の御言葉の中に探して実践しようとするならば、服ではなくて、その人が持っている人格や神様がその人その人に与えられた尊さを見るべきだと思います。しかし私たちは、いつも失敗をしてしまいます。

今日の福音は、読めば誰にでも納得ができます。ファリサイ派の人々が悪い、とすぐに分かります。それなのに実際には、私たちは自分でも知らないうちにこのファリサイ派の人々のようなやり方、考え方をしています。それが私たちの弱さではないかと思えます。

皆様、こういう点を意識しなければ駄目なのです。私達が気軽に口にする言葉、投げてしまう目つきによって、自分がどのように本物の人生を生きているのか、そして偽物の信者の生活をしているのかが、はっきり表れます。

今日の福音をとおしてもう一回考えてみましょう。このような物語を聞いたら誰でも納得できるのに、なぜ私たちの実際の生活で、このようなイエス様の御言葉の実践ができないのか。それを考えてみますと、神様に赦しを求める気持ち、自然にでるのではないのでしょうか。

皆様、一番良い方法を教えましょう。できるだけ人に後ろ指を差さないでください。後ろ指を差す

と、大体罪を感じてしまいます。私自身の経験を考えてみても、人を悪く言ったときには、大体、自分が罪を感じてしまいます。客観的に見て相手の人が間違えていても、自分にとっては重荷になってしまう、という体験をよくします。悪口を言う前に、「その人のために何をすればその人が一番よくなるか」を考えるのが、本物を選ぶ私たちの基本的な態度ではないかと思います。もちろん、私たちは失敗しながら、間違えながら、人生を送ります。できるだけ、その間違えから開放されるように努力しなければならないと思います。

さあ、今日イエス様はこのようにおっしゃいました。「(器の)外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか。」外も中も全部ご存知のイエス様。私達が神様に見せようとするものは、やはり内側ではないかと考えてみました。

ありがとうございました。